

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】令和4年8月30日(2022.8.30)

【公開番号】特開2022-106913(P2022-106913A)

【公開日】令和4年7月20日(2022.7.20)

【年通号数】公開公報(特許)2022-131

【出願番号】特願2022-76598(P2022-76598)

【国際特許分類】

A 6 1 M 11/04(2006.01)

10

A 6 1 M 15/06(2006.01)

A 2 4 F 40/40(2020.01)

A 2 4 F 40/51(2020.01)

【F I】

A 6 1 M 11/04 300 A

A 6 1 M 15/06 Z

A 2 4 F 40/40

A 2 4 F 40/51

【手続補正書】

20

【提出日】令和4年8月18日(2022.8.18)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

吸気孔を有する外側ハウジングを備える気化器本体と、

30

前記外側ハウジング内にはまるように構成される構造ハウジング構成要素と、

前記構造ハウジング構成要素内にある加熱器であって、前記吸気孔からの空気を加熱する加熱器と、

前記構造ハウジング構成要素内にあるオープンチャンバであって、前記加熱器によって加熱された空気中に気化可能物質を少なくとも部分的に気化させるように構成されるオープンチャンバと、

前記加熱器に結合され、前記加熱器をある温度まで加熱するように構成されるコントローラと、

前記外側ハウジングの一端に結合され、前記オープンチャンバ内の気化された物質をユーザに送達するように構成されるマウスピースと、

を備え、

前記構造ハウジング構成要素は、前記構造ハウジング構成要素と前記外側ハウジングとの間に内部側面チャネルが形成されるように構成されており、前記内部側面チャネルは、前記オープンチャンバから前記マウスピースまで延びてあり、前記気化可能物質が前記ユーザによって吸入されるための冷却経路を提供する、

気化器。

【請求項2】

前記気化可能物質は、裁刻された葉の形態の植物物質である、請求項1に記載の気化器。

【請求項3】

前記加熱器は、平板めっき加熱器である、請求項1に記載の気化器。

【請求項4】

50

前記空気の空気流を検出するように構成された圧力センサをさらに備え、前記圧力センサは、前記コントローラに結合され、前記空気流を検出すると信号を前記コントローラに送信する、請求項 1 に記載の気化器。

【請求項 5】

前記信号により、前記コントローラが前記加熱器を加熱させる、請求項 4 に記載の気化器。

【請求項 6】

前記マウスピースと前記オープンチャンバとは、互いに隣接している、請求項 1 に記載の気化器。

【請求項 7】

前記コントローラは、加熱器温度、流量、および時間の 1 つ以上の関数として前記加熱された空気の空気温度を決定するようにさらに構成されている、請求項 1 に記載の気化器。

【請求項 8】

1 つ以上の熱電対センサをさらに備え、前記 1 つ以上の熱電対センサは、前記加熱された空気の空気温度を検知し、前記コントローラに温度入力を提供する、請求項 1 に記載の気化器。

【請求項 9】

前記気化可能物質は、前記オープンチャンバ内における伝導によって加熱される、請求項 1 に記載の気化器。

10

20

30

40

50